

2. 教育学研究科

I	教育学研究科の教育目的と特徴	・・・	2-2
II	分析項目ごとの水準の判断	・・・	2-3
	分析項目 I 教育の実施体制	・・・	2-3
	分析項目 II 教育内容	・・・	2-5
	分析項目 III 教育方法	・・・	2-7
	分析項目 IV 学業の成果	・・・	2-9
	分析項目 V 進路・就職の状況	・・・	2-11
III	質の向上度の判断	・・・	2-13

I 教育学研究科の教育目的と特徴

大学院教育学研究科は、大学院規則第1条に基づき、「学部における教養あるいは教職経験の上に、広い視野に立って精深な学識を授け教育関係諸科学の研究を深めることにより、教育の理論と実践に関する優れた能力を有する教育者の養成」を教育目的とする。具体的には、新しい時代の教育を創造しうる高度な教育の専門性の修得、教育実践に関わることを通じた実践的教育能力の向上を図ると共に、学校教育において指導的立場に立ちうる人材の養成を行っている。

上記の目的を達成するため、本学教育学研究科では、①高度の専門性を基礎に、教育学研究科としての本質を念頭に置いた「学校教育に関する科目」の共通履修、②課題に即した個別の研究指導及び少人数制を原則としたきめ細かい指導体制、③現職教員に修学の機会を提供するため、勤務校に在職しながら研究が継続できるように授業時間帯等の工夫、④社会人のための4年以内の「長期履修学生」制度の導入、⑤臨床心理士や臨床発達心理士等の資格の取得を支援するための条件整備を行い、教育・研究活動の一層の活性化を目指している。

近年、大学院における社会人や教育者等の再教育への要請が高まっており、現職教員や社会人の修学・研鑽に便宜を図っている。現職教員等の履修に配慮するため、夜間・土曜・休業時等の多様な授業開講形態を拡充するとともに、京都駅前にサテライト教室を開設し、現職教員に対して教育実践学等の授業を夜間開講した。平成18年度からは、京都府総合教育センター北部研修所内にも北部サテライト教室を開設している。

さらに、平成17年～18年度にわたり、大学・大学院における教員養成推進プログラムに採択された「魅力ある教職生涯支援プロジェクト in 京都」(教員養成GP)に取り組み、従来の大学院教育学研究科のカリキュラムの見直しを図り、大学院教育の改善を進めた。特に、京都府・市教育委員会と連携して運営協議会を組織し、デマンドサイドの意向を取り入れた実践的な授業を開講した。また、平成17年度には、教職大学院設置に向けた検討を開始し、本学を基幹大学とし、5つの私立大学や京都府・市教育委員会と連携した連合教職大学院構想の具体化を推し進め、平成18年度、資質の高い教員養成推進プログラムに「連合大学院による教員養成高度化京都モデル」(連合大学院GP)が採択された。これらの成果をもとに、平成20年度から高度な職業的専門性及び豊かな人間性や社会性を備えた力量ある教員、かつ学校教育が抱える複雑・多様化した教育課題を解決し得る教員の養成をめざし、連合教職実践研究科が発足することとなった。同時に、既存大学院の見直しを行い、教育実践力向上のためのカリキュラム改革を平成20年度から実施することとした。

また、平成19年度専門職大学院等教育推進プログラムとして、「KYOの特別支援教育トライアングルプランナー特別支援教育臨床実践センター・教育委員会・学校による教員養成ー」(特別支援GP)の採択を受け、特別支援学校の若手リーダーや特別支援教育のスペシャリストの養成に着手した。

[想定する関係者とその期待]

院生、修了生、京都府・市及び近隣地域の教育委員会、同地域の学校や現職教員をはじめ、社会教育及び生涯教育等に関係する機関を関係者と想定し、実践的指導力と問題解決能力を兼ね備えた人材の輩出が期待されている。

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

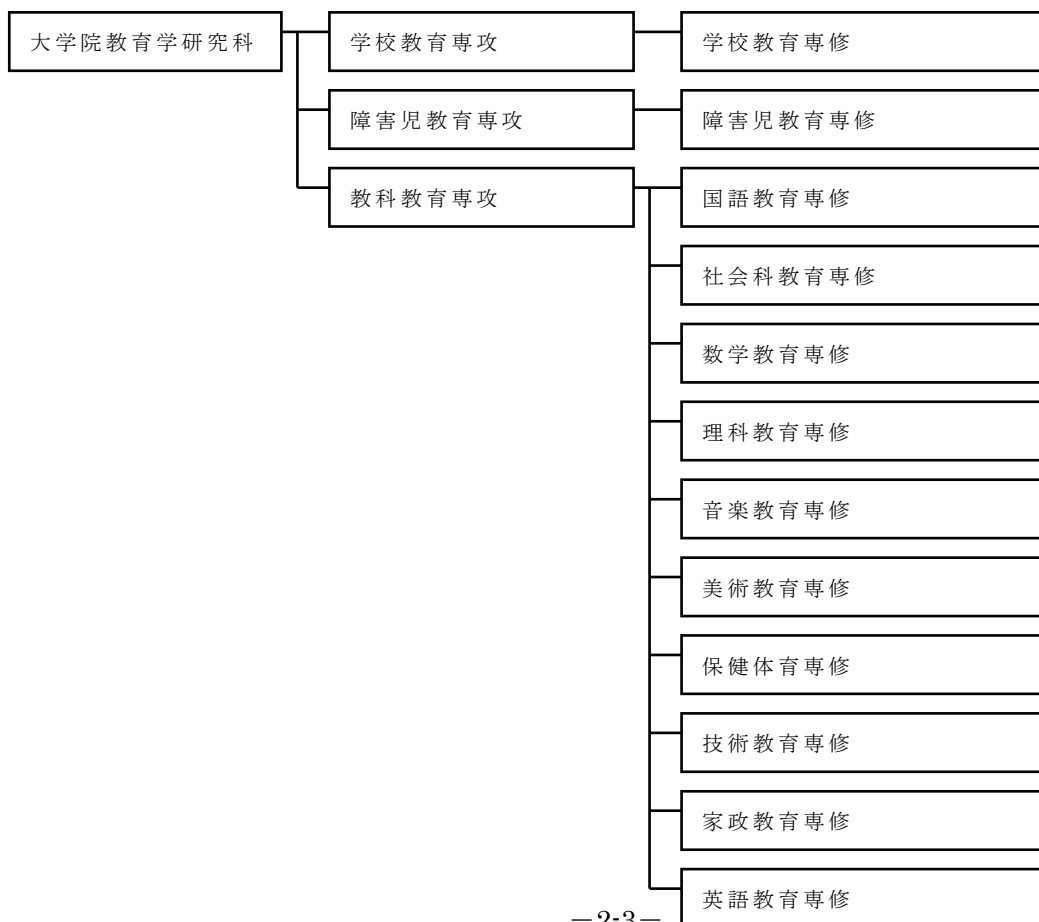
教育学研究科は、【資料1】に示した3専攻12専修で構成されている。学校教育専修では、教育学・幼児教育学コース、実践教育学コース、教育・発達心理学コース、教育臨床心理学コースを設け、教育諸領域にかかわる基本的課題や教育実践と結びついた具体的諸問題に対応している。

大学院の入学定員は75名である。臨床心理士等の資格試験の受験が可能となる学校教育専攻では、受験者の増加を鑑み、平成18年度及び19年度入試より定員の増加を図った。過去4年間の収容定員と現員の状況は【資料2】のとおりである。

教員組織は、教員養成における教科に関する組織を中心に構成され【資料3】、教員の採用や配置は、人事委員会及び資格審査委員会の審査を経て人事教授会で決定されている。専任教員と共に非常勤講師延べ387名(平成19年度)が授業を担当しているが、非常勤教員担当授業は全体の約8%前後であり、専任教員を中心に授業運営がなされている【資料4】。また、京都府教育委員会(平成16年度)、京都市教育委員会(平成17年度)とそれぞれ包括協定を締結し、平成17年度から両教育委員会から推薦された2名を専任教員として採用する、特任教員制を導入した。

さらに、平成19年度には、本学を基幹大学とし、京都の7つの私立大学及び京都府・市教育委員会と連携した連合教職大学院構想の具体化の推進(平成20年4月連合教職実践研究科発足)と共に、既存大学院の見直しを行い、教育実践力の向上のため、各専修に「〇〇科教育教科内容論」「〇〇科教育実践特別演習」を新設する等のカリキュラム改革を平成20年度より実施することとした【別添資料1】。

【資料1】大学院組織図(大学概要より)



【資料2】大学院教育学研究科修士課程の学生定員と現員

専攻・専修名	平成16年度 定員 (現員)	平成17年度 定員 (現員)	平成18年度 定員 (現員)	平成19年度 定員 (現員)
学校教育専攻	30 (47)	30 (55)	35 (53)	40 (60)
障害児教育専攻	10 (11)	10 (13)	10 (14)	10 (13)
教科教育専攻	100 (103)	100 (111)	100 (105)	100 (106)
合計	140 (161)	140 (179)	145 (172)	150 (179)

【資料3】教員数一覧（平成20年3月31日現在）

専攻・専修名	研究指導教員数	研究指導補助 教員数
学校教育専攻	15	7
障害児教育専攻	2	4
教科教育専攻		
国語教育専修	5	2
社会科教育専修	8	4
数学教育専修	4	3
理科教育専修	7	7
音楽教育専修	5	2
美術教育専修	7	3
保健体育専修	7	3
技術教育専修	5	3
家政教育専修	4	3
英語教育専修	4	5
合計	73	46

【資料4】専任／非常勤教員別授業科目数

大学院	平成16年度			平成17年度			平成18年度			平成19年度		
	科目数	教員別科目数		科目数	教員別科目数		科目数	教員別科目数		科目数	教員別科目数	
		専任	非常勤		専任	非常勤		専任	非常勤		専任	非常勤
通年科目	58	58	0	55	55	0	25	25	0	61	61	0
前期科目	134	122	12	164	149	15	166	151	15	171	157	14
後期科目	144	133	11	132	117	15	151	133	18	155	136	19
合計	336	313	23	351	321	30	342	309	33	387	354	33

観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

（観点到係る状況）

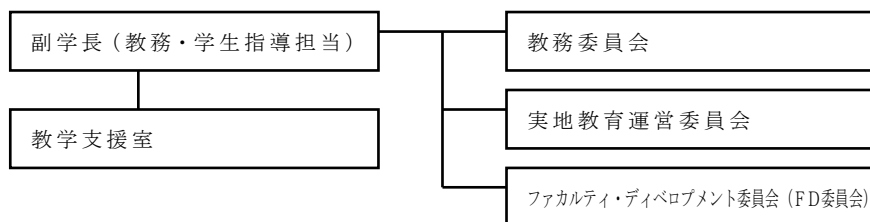
本研究科では、各院生に入学時に研究課題を提出させ、志望を重視し選定した2名の指導教員をつける「指導教員制」をとっている【資料5】。教育の状況を把握する組織として、【資料6】に示す教学支援室、教務委員会、実地教育運営委員会、FD委員会がある。教育の状況については、教務委員会が教員に授業開始前にシラバス、授業終了後に授業科目実施報告書の提出を求め、教育内容や成績評価等の教育活動の把握に努めている。授業は、少人数制の形態が中心であり、各教員が院生の状況を見定めながら授業を行っている。平成19年度には、FD委員会が院生からの聞き取りによる授業評価を実施し、教育内容・方法の改善に向けた組織的な取組を開始した。

【資料5】指導教員制（大学院教育学研究科学生便覧より抜粋）

授業科目の履修の指導及び研究指導を行うために、次のように指導教員を定める。

- ① 各学生に対して、大学院担当教員の中から2名の指導教員を定める。
- ② 指導教員のうち1名は学生の希望を考慮して専修で決定する。
他の1名は専修で指定する。
- ③ 指導教員は学生の入学時から修了まで一貫して指導に当たるものとする。

【資料6】教育関係委員会組織図



（2）分析項目の水準及びその判断理由

（水準） 期待される水準にある。

（判断理由）

すべての院生に対して指導教員制を導入し、研究及び教育面で適切な指導が受けられる体制となっている。また、教学支援室、教務委員会、実地教育運営委員会、FD委員会が中心となり教育内容や方法の改善に取り組んでいる。教育の質の向上に関しては、教務委員会及びFD委員会を中心に、シラバスの作成、授業科目実施報告書の取りまとめや研修会への参加といった一連の活動を行っている。平成19年度には、院生への聞き取りによる授業評価を実施し、更なる質の向上を図っている。

さらに、高度な専門性を有し、学校教育が抱える多様化した教育課題に対処できる教員の養成や学校経営を担うスクールリーダーを育成するために、本学を基幹大学とした連合教職大学院設置計画を具体化すると同時に、既存大学院の見直しを行い、平成20年度実施に向け教育実践力向上のためのカリキュラム改革を行った。

分析項目Ⅱ 教育内容

（1）観点ごとの分析

観点 教育課程の編成

（観点到に係る状況）

教育課程は【資料7】のとおりであり、専攻ごとに、「学校教育に関する科目」「障害児教育に関する科目」「教科教育に関する科目」「教科専門に関する科目」についての履修基準を定め、それらに加えて「自由選択」と「課題研究」を履修することにより、教育職員の専修免許を取得することができる。

【資料7】大学院履修表（平成19年度大学院教育学研究科学生便覧より作成）

専攻	学校教育専攻	教科教育専攻	専攻	障害児教育専攻
学校教育に関する科目	14	4	障害児教育に関する科目	14
障害児教育に関する科目	4		学校教育に関する科目	4
教科教育に関する科目		6	14	
自由選択	6		6	自由選択
課題研究	6	6	課題研究	6
合計	30単位		合計	30単位

大学院の教育課程の授業科目の構成は、【別添資料2】のようになっている。

また、教員養成 GP が採択されたことにより、教育課程の充実を目的とした新たな授業の開発に着手した。これは現職教員の再教育に重点を置くもので、教員のライフステージに応じて、若手教員の力量を伸ばす「ベーシック講座」、中堅教員の得意分野を伸ばす「エキスパート講座」、実践と理論の融合を図る「実践教育学講座」、学校管理職に必要なマネジメント能力を養う「学校経営改善講座」等を京都府・市教育委員会との連携により平成 18 年度に開設した【別添資料 3】。これらの講座は大学院生の受講のみならず、履修方法の弾力化・履修機会の拡大を図り、科目等履修制度を積極的に利用することで、教員の再教育への貢献も目指したものである。

平成 20 年度からの教職大学院の開設に合わせて、既存大学院の教育課程をさらに見直し、「教育の理論と実践に優れた能力を有する教育者の育成」という目的の遂行をより確かなものにするため、教育課程の抜本的改編を図った。

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

大学院は、学部からの進学者や現職教員などの多様な学生に対応するために、昼夜開講の形態をとっており、昼間か夜間のどちらかだけでも、2 年間で必要単位が修得できるように時間割を工夫している。さらに平成 17 年度からは、大学全体の時間割を 1 日 7 時制限にして、夜間の開始時刻を 18 時からに繰り下げ【資料 8】、現職教員などが授業に出席しやすくなるよう配慮した。

また、入試制度も現職教員に門戸を広げるため、現職教員に対しては外国語を小論文に代替できる B 入試を導入するとともに、修学年限が最長 4 年まで認められる長期履修制度や 1 年で修了することのできる在学期間の特例を設けている。

藤森キャンパスに加え、JR 京都駅に近いキャンパスプラザ京都にサテライト教室、京都府綾部市に北部サテライト教室を設置し、授業を開設している。平成 18 年度修了生のうち、約 3 割がこれらサテライト教室を利用した。このほか、土日や夏休みに集中開講科目を設置するなど、開講形態においても受講者の便や社会の要請に応えるよう努力している。

【資料 8】授業時間（大学院教育学研究科学生便覧より）

大学（藤森学舎）		サテライト教室 （キャンパスプラザ京都）	
時 限	授業時間	時 限	授業時間
1	8 : 45 ~ 10 : 15	1	8 : 45 ~ 10 : 15
2	10 : 30 ~ 12 : 00	2	10 : 30 ~ 12 : 00
3	12 : 50 ~ 14 : 20	3	12 : 50 ~ 14 : 20
4	14 : 35 ~ 16 : 05	4	14 : 35 ~ 16 : 05
5	16 : 20 ~ 17 : 50	5	16 : 20 ~ 17 : 50
6	18 : 00 ~ 19 : 30	6	18 : 20 ~ 19 : 50
7	19 : 40 ~ 21 : 10	7	20 : 00 ~ 21 : 30

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

大学院の目的に沿って教育課程を編成し、教員養成および現職教員の研修や研究の場としての役割を果たしている。また、授業内容は、【別添資料 2】に例示したとおり、教育課程編成の趣旨に沿ったものになっている。京都府・市教育委員会との連携のもと、教員のライフステージに応じて資質や力量を高めることのできる講座を開設するなど、教育現場における課題や要請に応えるカリキュラムの工夫をしている。また、平成 20 年度からの連合教職実践研究科の開設に合わせ、さらなる教育課程の改革を積極的に行おうとしている。

学生や社会の要請に関しては、多様な就労形態にある現職教員が働きながら学べるよう、昼夜開講の形態をとっており、同一科目を隔年で昼夜に振り分けたり、夜間の授業開始時刻を遅らせたりして時間割を工夫し、2年間で必要単位が取れるよう配慮している。

分析項目Ⅲ 教育方法

(1) 観点ごとの分析

観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

専攻や専修のねらいや特色にあわせて、講義（特論、特講）と演習の組合せを基本としながら、実験および実習の形態を適切に配置している【別添資料4】。主要な授業科目は主に専任教員が行っており、各専修の分野をバランス良く網羅し開講している。

各専修の授業の多くは、研究室にて少人数で行っているため、対話、発表、討論の形式をとることが多い。また、研究指導においては個別指導が主体となっている。学習指導法の工夫の例としては、【別添資料5】のものがある。また、学部の演習や実習などの授業に、大学院学生をTAとして参加させることにより、院生が自分の専門とする知識や技能等について整理したり深めたりするとともに、授業の仕組みや指導のあり方、教材や教具の準備などの教育の実際について具体的に学ぶ機会になっている【資料9】。

大学院では平成17年度から「シラバス作成要領」を定めシラバスを作成している。シラバス活用状況については、平成18年度修了生アンケート結果によると、①利用した(47.7%)②ある程度利用した(36.9%)となっており、8割以上の学生が利用している。大学院においても学部同様、平成19年度より教育支援システムが稼働し、教務情報の管理が一元化したことで、学生・教員ともに教務情報にアクセスしやすくなり情報の共有化が図られるようになった【資料10、11】。

【資料9】TAの活用状況一覧（平成19年度実績）

所属専攻・専修名	TA従事者数
学校教育専攻	6
障害児教育専攻	3
教科教育専攻	
国語教育専修	1
社会科教育専修	2
数学教育専修	1
理科教育専修	15
音楽教育専修	5
美術教育専修	8
保健体育専修	3
技術教育専修	1
家政教育専修	1
英語教育専修	2
計	48

【資料 10】シラバス作成画面



【資料 11】シラバス検索画面



観点 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

単位認定には授業（講義、演習、実験実習および実技に区分）1単位につき標準 45 時間の学修を要することを学生便覧に明記し、入学時のオリエンテーションおよび各専修の履修指導の際にも明示し主体的な学習を促す指導を行っている【資料 12】。

自主学习については、学習内容の理解や学習意欲を喚起するためレポートを課すなどしている。また休講の代替として補講を実施し、学修の時間確保に努めている。一方、自習のための大学院生の部屋や夜間まで使える情報機器等の整備は十分に確保されているとは言いがたいが、耐震工事に伴う校舎改修の機会を捉えて、学習環境の充実・整備に取り組んでいる。このほか、自主学习については、教員に対しシラバスへの掲載や授業科目実施報告書における指導結果のコメント【資料 13】を求めることにより、指導の自覚を促している。

【資料 12】単位認定（平成 19 年度教育学研究科学生便覧より抜粋）

(7) 単位の認定
 大学院における授業は、講義、演習、実験、実習及び実技に区分され、1単位は、標準 45 時間の学修を要するものとする。なお、各授業方法ごとの1単位当たりの授業時間数は次のように定める。
 ①講義、演習 授業 15 時間をもって1単位とする。
 講義、演習は、1週2時間（本研究科では、1校時は2時間となっている。）で一期間（15週）学修し、試験に合格すれば2単位が認定される。
 ②実験、実習及び実技 授業 30 時間をもって1単位とする。
 実験等は、1週2時間（本研究科では、1校時は2時間となっている。）で一期間（15週）学修し、試験等に合格すれば1単位が認定される、
 (以下省略)

【資料 13】単位の実質化への取組例（平成 17 年度授業科目実施報告書より）

区 分	内 容
大学院教科教育	毎時間、与えられた課題に対して、確実にレジメを作成し、しっかりとした発表を行い、討論においても積極的に発言をしていたので、総合的にこのような評価を行った。
大学院教科教育	評価は、各授業のレポート、開発した教材・プロセス、その模擬授業について行ったが、すべての受講者は大変高いレベルの成果を上げることができた。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)期待される水準にある。

(判断理由)

授業形態の組合せのバランスは適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。少人数授業であることに加え、受講生が現職教員や学部からの進学者が混在するなど多様であるため、シラバスを骨子としながら、その年度の受講生にあわせて臨機応変に対応している。

主体的な学習を促す取組は、学生への履修指導やシラバスへの掲載等で行われており、学習環境も整備されつつあるが、引き続き全学的な検討が必要である。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

本学研究科で育成する人材像は教育学研究科学生便覧に掲載し、大学院入試説明会や新入生オリエンテーションにおいても説明している【別添資料6】。

大学院では、学生個人々人に対し主任指導教員及び指導教員を決め、各教員は教育・研究の達成状況を詳細に把握し、マンツーマンのきめ細かな学生指導を行っている。

全学的な検証については、成績、単位取得、修了判定、免許・資格取得等に関する事項は教務委員会において、教育実習を中心とする実地教育関係は実地教育運営委員会で、進路状況については、学生生活・就職対策委員会で検討のうえ教授会で行っている。さらにこれらに加え、大学評価室では修了時におけるアンケート調査などにより、教育成果達成状況の検証・評価を行っている。

学生が身に付ける学力や資質・能力について、「平成18年度授業科目実施報告」では、授業担当教員による「授業の目標と対応させた達成度」が、大学院では95%がA「十分に達成できた」またはB「かなり達成できた」を回答している。また成績評価の結果については、少人数の受講生に対するきめ細やかな指導が反映し、【資料14】のとおり多くの院生が優秀な成績を修めている。

【資料14】大学院における授業成績評価結果

	科目数	延べ人数	評価別割合 (%)			
			優	良	可	否
教職科目	163	1,531	89.9	3.5	0.6	5.9
教科専門科目	116	297	87.5	5.7	0.7	6.1
合計	279	1,828	89.6	3.9	0.6	6.0

修了時の資格取得状況については、【資料15】に示すように、平成18年度の72名の修了者中、専修免許状取得者は延109名であり、1人あたり平均して2.4種類の専修免許を取得している。なお修了者数と免許取得者数との差は、主に臨床心理士などの受験資格を目的とする者によると考えられる。

平成16年度から18年度にかけての修了者数および留年者、休学者数については、【資料16】のとおりである。なお留年理由の多くは修士論文未提出によるものである。

学生が行った論文発表、ならびに学会発表に関する資料をそれぞれ【別添資料7、8】に示す。

【資料15】教育学研究科専修免許取得状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
修了者数	64	73	72
免許取得者数	41	38	45
専修免許（小学校）取得者数	22	16	18
専修免許（中学校）取得者数	35	35	37
専修免許（高等学校）取得者数	41	40	52
専修免許（養護学校）取得者数	2	1	1
専修免許（幼稚園）取得者数	1	1	1
延べ取得者数	101	93	109
個人あたり免許平均取得数	2.5	2.4	2.4

【資料16】修了者数および留年者、休学者数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
修了者数	64	73	72
留年者数	15	15	12
休学者数	9	4	9

観点 学業の成果に関する学生の評価

（観点に係る状況）

院生定員がわずかであるため、学部で行っているような授業アンケートの取りまとめは困難であることから、各専修・コースから2名（現職教員の院生1名、学部からの進学者1名）を選出し、個別面接による聞き取り調査を行った。質問内容は【資料17】のとおりである。

平成19年度FD活動報告書を見ると、回答内容は多様であり、数量化は難しいが、全体を通して、授業のレベル・教員の授業に対する取り組み方などは総じて好評であった。

【資料17】大学院教育に関する調査（質問票）

Q1 あなたは大学院の授業についてどのように思いますか。
 （たとえば授業のレベル、教授方法、あるいは取り扱った領域に興味を覚えたか、など）

学校教育専修の授業：
 障害児教育の授業：
 各教科教育の授業：

Q2 あなたは大学院のカリキュラム（教育課程）についてどのように思いますか。
 （例えば最低修得単位数、自専修に設置の授業コマ数、授業の開設時間割、など）

Q3 その他に何かご意見があればお答えください。

（2）分析項目の水準及びその判断理由

（水準） 期待される水準にある。

（判断理由）

育成しようとしている人材像については、大学案内や大学院教育学研究科修士課程案内等で公表し、また新入生オリエンテーション等で説明している。

教育成果の検証については、まず指導教員や各専修での把握がなされ、全学的には関連委員会での検討を経たうえで、教授会で確認している。

修了時に学生が身に付ける学力や資質・能力に関しては、教員による大学院生の成績評価結果は大変高く（【資料14】（p2-9）参照）、このことは少人数による丁寧な教育の成果と考えられる。また修了する院生の多くは、複数種の専修免許状を取得している。これらのことから、本学での教育の成果や効果があがっていると判断することができる。

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点に係る状況)

平成16年度から18年度にかけての修了生の進路状況は【資料18】のようになっている。ほぼ半数近くが教員になっており、教員採用合計数も年々上昇している。一方で、企業や公務員等への就職者が増加している。学部卒業生に比べ修了生の正規教員比率が低い理由の一つには、教科への専門性が高い高校教員を志望する院生が多いにもかかわらず需要が大変少ないことがあげられる。

【資料18】大学院生進路調査結果(年度末卒業生のみ)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
修了者数	55	71	69
現職教員	11	12	12
教員(正規採用)	13	10	7
教員(非常勤採用)	7	12	21
企業	14	6	10
公務員等	2	12	10
進学	1	2	5
その他	7	17	4
教員採用合計	20	22	28
教員採用比率*(%)	45.5	37.3	49.1
正規教員比率(%)	29.5	16.9	12.3

*現職教員を除いた数で割った。

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

毎年度末に実施している修了生アンケートにおいて、本学大学院の教育が、その教育目的、すなわち「学部における教養あるいは教職経験の上に、広い視野に立って精深な学識を授け教育関係諸科学の研究を深めることにより、教育の理論と実践に関する優れた能力を有する教育者の養成を目的とする。」に合致しているかという問いに対し、「合致している」「ある程度合致している」が、平成17年度修了生～18年度修了生のそれぞれにおいて90.3%、81.2%という結果になっている【資料19】。また「総じて、本学の教育に満足していますか。」という問いに対しては、「満足」「ある程度満足」が平成17年度修了生および18年度修了生のそれぞれにおいて88.5%、83.0%という結果であった【資料20】。

また、平成17年度に実施された「地域と連携した教育の総合大学としてのあり方に関する調査研究」においては、京都府・市の現職教員から本学の教育理念に関する項目や教員養成への貢献度に関する項目で高い評価を受けた【資料21】。

【資料 19】平成 17・18 年度修了生アンケート集計結果の一例（問 20）

問 20 本学大学院の教育は、次に示した本学大学院の目的に合致していると思いますか。

「学部における教養あるいは教職経験の上に、広い視野に立って精深な学識を授け教育関係諸科学の研究を深めることにより、教育の理論と実践に関する優れた能力を有する教育者の養成を目的とする。」

①合致している ②ある程度合致している ③あまり合致していない ④全く合致していない

	17 年度修了生		18 年度修了生	
	人数	比率%	人数	比率%
①	17	27.4	10	15.6
②	39	62.9	42	65.6
③	6	9.7	11	17.2
④	0	0.0	1	1.6

【資料 20】平成 17・18 年度修了生アンケート集計結果の一例（問 40）

問 40 総じて、本学の教育に満足していますか。

①満足 ②ある程度満足 ③あまり満足していない ④不満足

	17 年度修了生		18 年度修了生	
	人数	比率%	人数	比率%
①	21	34.4	14	21.5
②	33	54.1	40	61.5
③	7	11.5	8	12.3
④	0	0.0	3	4.6

【資料 21】「地域と連携した教育の総合大学としてのあり方に関する調査研究」からの例

【Ⅱ-2】教育についての専門的な知識・技術の身につく大学

		大変そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	合計
全体	人数	531	921	114	6	1572
	比率 (%)	33.8	58.6	7.3	0.4	100

【Ⅱ-5】優秀な教員を送り出してきた大学

		大変そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	合計
全体	人数	232	1039	275	15	1561
	比率 (%)	14.9	66.6	17.6	1.0	100

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

大学の意図する教育の効果については、修了時のアンケート等により、目的の合致度は約 8 割が肯定的で、同様に 8 割以上の者が本学の教育に大体満足していると評価している。教員採用比率は上昇傾向にある。また、教員以外に公務員等への就職者数も増加しており、さらに他大学大学院への進学者数も増加傾向にある。今後は院生に対する独自の就職ガイダンスをより深め、更なる向上を目指す必要がある。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例1「現職教員に対応したカリキュラム・入試制度」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組) 本学大学院教育学研究科の教育課程では開設当初より昼夜開講の形態を取り、個々の授業を奇数年と偶数年で昼間(第3時限～第5時限)と夜間(第6時限か第7時限)を入れ替えて開講することで、昼間か夜間のいずれかだけでも、2年間で必要単位が修得できるように科目を設置している。また平成17年度からは夜間の授業時間を午後6時からと繰り下げ、5限目を学部と共通の時間割とすることで学部の授業をとりやすくする工夫もしている(【資料8】(p2-6)参照)。さらに、現職院生の受講が多い授業科目は、サテライト教室での開講や土日・夏休みの集中科目として開講するなど便宜を図っている。

入試制度については現職教員に門戸を広げる見直しを行い、平成14年から現職教員を対象に一般受験者に課す外国語を小論文に代替できるB入試を導入するとともに、平成16年からは修学年限を最長4年まで認める長期履修制度も発足させ、就業しながら学ぶ院生に対しても修学機会の拡大を図っている。なお、この制度を利用して就学してきた院生は平成16～19年度の間で36名に達しており、現職教員の就学に貢献している。

②事例2「教員養成GP『魅力ある教職生涯支援プロジェクト in 京都』」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組) 本プロジェクトの実施により、京都府・市教育委員会との連携・協力の下、本学教育学研究科に設置している授業科目を見直し、デマンドサイドに立ち、全専修の取組として現職教員を科目等履修生として受入れた。平成17年度は「学校経営改善講座」を開設、平成18年度には、「ベーシック講座」「エキスパート講座」「実践教育学講座」の3講座を加え、延べ50科目を開設し、本学、コンソーシアム京都及び北部サテライト教室において計549名が受講した【資料22】【別添資料3】。授業アンケートによる受講生の評価では【資料23】のとおり概ねGP講座に好印象を持っていた。

【資料22】平成18年度講座別受講生数

講座名	授業数	受講生数
ベーシック講座	7	30
実践教育学講座	12	67
エキスパート講座	9	69
エキスパート講座パッケージ	13	110
学校経営改善講座	9	273
合計	50	549

【資料23】受講生によるGP講座の評価(講座別)

受講生 評価項目	ベーシック講座	実践教育学講座	エキスパート講座	エキスパートパッケージ	学校経営改善講座	受講生(平均)
①GP全体における位置	3.4	3.7	3.1	2.9	3.2	3.3
②各回の目的、目標	3.3	3.7	3.1	2.9	3.2	3.2
③授業者の組織・構成	3.6	3.7	3.3	3.2	3.4	3.4
④学生受入・情報提供	2.9	3.3	2.5	2.5	2.7	2.8
⑤授業の内容	3.3	3.6	3.2	2.8	3.1	3.2
⑥学習指導の工夫	3.4	3.7	3.1	2.8	2.6	3.1
⑦成績評価	3.4	3.7	3.1	2.6	2.8	3.1
⑧教育目的の成果	3.4	3.6	3.2	3.1	3.0	3.3
⑨学習支援(相談助言)	3.3	3.7	3.2	2.7	3.1	3.2
⑩時間設定	3.1	3.4	3.0	3.0	2.8	3.1
⑪施設設備	2.6	3.7	3.2	2.4	2.8	2.9
平均	3.3	3.6	3.1	2.8	3.0	3.2

評価にあたっては次の評価基準を設定し、加算平均した。

達成状況が不十分である…1 達成状況がおおむね良好である…2

達成状況が良好である…3 達成状況が非常に優れている…4

③事例3「連合大学院 GP『連合大学院による教員養成高度化京都モデル』(分析項目Ⅰ)

(質の向上があったと判断する取組)本プロジェクトは、本学を基幹大学とする6大学と協力校及び京都府・市教育委員会とが協働して、各機関が有している人的資源と蓄積している知的資源を最大限活かす大学院連合システムを開発し、連合による教職大学院の可能性を検証することをねらいとしている。授業開発としては、平成18年度後期より「教育相談・特別支援教育の理論と実際」「学校経営特論」の2科目を開設した。平成19年度には7科目を4大学において開設し、78名が受講した【資料24】。

【資料24】連合大学院GP開設科目受講状況一覧

開講大学院研究科	授業科目名	科目等履修生 (現職教員)	単位互換 履修生	正規院生 受講者数
京都教育大学大学院 教育学研究科	「カリキュラム開発特論」 －特色あるカリキュラムづくり－	2 (他に研究生1)		5
	「教育開発リーダー研究特論」 －生徒指導と学級経営のあり方－	7	1(佛教大学)	3
	「教育相談・特別支援教育の理論と実際」 －不登校と発達障害－	12	3(佛教大学2・ 京都女子大学1)	10
	「学校経営特論」 －学校の組織構造と経営実践－	1		7
京都女子大学大学院 発達教育学研究科	「学校教育学特論B」 －教科等の実践的指導方法－			2
佛教大学大学院教育 学研究科	「生涯教育方法学演習1」 －教育方法の実践開発－	2		5 (他にDCボ ランティア2)
立命館大学大学院応 用人間科学研究科	「特別支援教育に関わる方法論」 －個別支援プログラムの本質的機能－	9	1 (京都女子大学)	8

④事例4「既存大学院改革」(分析項目Ⅱ)

(質の向上があったと判断する取組)本学を基幹大学とした連合教職大学院設置の具体化と同時に、既存大学院カリキュラムの見直しを行った。見直しの目的は、教員養成GPの採択を契機とした授業改善の実践を定着させるとともに、学校教育における教科や教育課題を基軸として教育の理論と実践に関する優れた能力を有する教育者を養成することにある。具体的には、専修各分野の理論と教育実践を結ぶ教育課程の構造を強化し、教育理解・子ども理解・学校理解のための科目群や教科専門から見た教育内容に関する科目群及び教科と教育実践に関する科目群を設置し、2つの大学院がその差異を明確にしつつ、有機的に連携するシステムを平成20年度より実施することとした【別添資料1】【別添資料9】。

学部・研究科等の現況調査表

資料集：教育（教育学研究科）

－ 別添資料集目次 －

【資料1】 既存大学院教育学研究科カリキュラム改革の例	1
【資料2】 大学院授業科目の構成例	2
【資料3】 教員養成 GP 科目一覧	3
【資料4】 多彩な学修形態の例	5
【資料5】 学習指導法の工夫の例	5
【資料6】 大学院教育学研究科アドミッション・ポリシー	6
【資料7】 大学院生による論文・作品発表	6
【資料8】 大学院生における学会等発表一覧	7
【資料9】 既存大学院教育学研究科カリキュラム改革の例	8

別添資料集

京都教育大学教育学研究科

【資料1】既存大学院教育学研究科カリキュラム改革の例（平成20年度教育学研究科学生便覧より）

理科教育専修課程表

専攻	専修	分野	授業科目名	履修年次	期別	単位数	必修・選択の別	担当教員	
教科教育	理科教育	関する科目に	理科教育特論Ⅰ Topics in Science Education I	1.2	前	2	選択	教授 広木 正紀	
			理科教育特別演習Ⅰ Seminar in Science Education I	1.2	後	2	〃	教授 広木 正紀	
			理科教育特論Ⅱ Topics in Science Education II	1.2	後	2	〃	教授 村上 忠幸	
			理科教育特別演習Ⅱ Seminar in Science Education II	1.2	前	2	〃	教授 村上 忠幸	
			理科教育事例研究	1.2	後	2	〃	〃	関連教員
		教科専門に関する科目	物理学	物理学特論Ⅰ	1.2	前	2	選択	教授 沖花 彰
				物理学特論Ⅱ	1.2	後	2	〃	准教授 高嶋 隆一
				物理学特論Ⅲ	1.2	前	2	〃	准教授 谷口 和成
			化学	化学特論Ⅰ	1.2	後	2	選択	教授 芝原 寛泰
				化学特論Ⅱ	1.2	前	2	〃	准教授 巻本 彰一
				化学特論Ⅲ	1.2	前	2	〃	准教授 向井 浩
			生物学	生物学特論Ⅰ	1.2	前	2	選択	教授 松良 俊明
	生物学特論Ⅱ			1.2	後	2	〃	教授 坂東 忠司	
	生物学特論Ⅲ			1.2	前	2	〃	教授 細川 友秀	
	生物学特論Ⅳ			1.2	後	2	〃	准教授 梶原 裕二	
	地学	地学特論Ⅰ	1.2	後	2	選択	准教授 田中 里志		
		地学特論Ⅱ	1.2	前	2	〃	講師 谷口 慶祐		
	（教科内容論）	理科教育教科内容論Ⅰ	1, 2	後	2	選択	〃	関連教員	
		理科教育教科内容論Ⅱ	1, 2	後	2	〃	〃	関連教員	
		理科教育教科内容論Ⅲ	1, 2	前	2	〃	〃	関連教員	
		理科教育教科内容論Ⅳ	1, 2	前	2	〃	〃	関連教員	
	理科教育	専修共通科目	理科教育実践特別演習Ⅰ	1.2	前	2	選択	〃	関連教員
			理科教育実践特別演習Ⅱ	1.2	後	2	〃	〃	関連教員
			理科教育実践総論	1.2	前	2	〃	〃	関連教員
理科教育実践演習			1.2	前	2	〃	〃	関連教員	
教員インターン実習(初等教育)			2	通	6	〃	〃	関連教員	
教員インターン実習(中等教育)			2	通	6	〃	〃	関連教員	
教員インターン実習(障害児教育)			2	通	6	〃	〃	関連教員	
課題研究 Directed Research			2	通	6	必修	〃	関連教員	
設置単位						74			

【資料2】大学院授業科目の構成例（平成18年度教育学研究科学生便覧より）

理科教育専修課程表

専攻	専修	分野	授業科目名	履修年次	期別	単位数	必修・選択の別	担当教員		
教育学	理科教育	理科教育	理科教育特論Ⅰ Topics in Science Education I	1	前	2	選択	教授	広木 正紀	
			理科教育特別演習Ⅰ Seminar in Science Education I	1.2	後	2	〃	教授	広木 正紀	
			理科教育特論Ⅱ Topics in Science Education II	1	後	2	〃	助教授	村上 忠幸	
			理科教育特別演習Ⅱ Seminar in Science Education II	1.2	前	2	〃	助教授	村上 忠幸	
		物理学	原子核物理学特論 Topics in Nuclear Physics	1	前	2	〃	教授	沖花 彰	
			物理学特別演習Ⅲ Seminar in Physics III	1.2	後	2	〃	教授	沖花 彰	
			物理学教育特論 Topics in Physics Education	1	前	2	〃	教授	沖花 彰	
			素粒子物理学特論 Topics in Elementary Particle Physics	1	前	2	〃	助教授	高嶋 隆一	
			物理学特別演習Ⅳ Seminar in Physics IV	1.2	後	2	〃	助教授	高嶋 隆一	
			応用物理学特論 Topics in Applied Physics	1	前	2	〃	講師	谷口 和成	
			応用物理学特別演習 Seminar in Applied Physics	1.2	後	2	〃	講師	谷口 和成	
			化学	生物化学特論 Topics in Biochemistry	1	前	2	〃	助教授	巻本 彰一
		生物化学特別演習 Seminar in Biochemistry		1.2	後	2	〃	助教授	巻本 彰一	
		物理化学特論 Topics in Physical Chemistry		1	前	2	〃	教授	芝原 寛泰	
		物理化学特別演習 Seminar in Physical Chemistry		1.2	後	2	〃	教授	芝原 寛泰	
		分析化学特論 Topics in Analytical Chemistry		1	前	2	〃	助教授	向井 浩	
	分析化学特別演習 Seminar in Analytical Chemistry	1.2		後	2	〃	助教授	向井 浩		
	生物学	動物生態学特論 Topics in Animal Ecology	1	前	2	〃	教授	松良 俊明		
		生物学特別演習Ⅱ Seminar in Biology II	1.2	後	2	〃	教授	松良 俊明		
		動物発生学特論 Topics in Animal Development	1	前	2	〃	助教授	梶原 裕二		
		生物学特別演習Ⅲ Seminar in Biology III	1.2	後	2	〃	助教授	梶原 裕二		
		分子生物学特論 Topics in Molecular Biology	1	前	2	〃	教授	細川 友秀		
		分子生物学特別演習 Seminar in Molecular Biology	1.2	後	2	〃	教授	細川 友秀		
		植物分類学特論 Topics in Plant Taxonomy	1	前	2	〃	教授	坂東 忠司		
		生物学特別演習Ⅳ Seminar in Biology IV	1.2	後	2	〃	教授	坂東 忠司		
	教科教育	教科専門に関する科目	地学	地層学特論Ⅰ Topics in Stratigraphy I	1	前	2	選択	助教授	田中 里志
				地学特別演習Ⅰ Seminar in Stratigraphy I	1.2	後	2	〃	助教授	田中 里志
				地層学特論Ⅱ Topics in Stratigraphy II	1	前	2	〃		不開講
				地学特別演習Ⅱ Seminar in Stratigraphy II	1.2	後	2	〃		不開講
				地殻変動学特論 Topics in Crustal Dynamics	1	前	2	〃	講師	谷口 慶祐
				地殻変動学特別演習 Seminar in Crustal Dynamics	1.2	後	2	〃	講師	谷口 慶祐
			専修共通科目	理科教材特別研究Ⅰ Studies in Matter for Science Education I	1.2	後	2	必修		関連教員
理科教材特別研究Ⅱ Studies in Matter for Science Education II				1.2	前	2	〃		関連教員	
理科教育実践特別演習 Practical Studies in Science Education				1.2	後	2	選択		関連教員	
理科教育基礎研究				1.2	前	2	〃		関連教員	
理科教育実践総論		1.2		前	2	〃		関連教員		
理科教育実践演習		1.2		前	2	〃		関連教員		
理科教育事例研究		1.2		後	2	〃		関連教員		
教員インターン実習(初等教育)		2		通	6	〃		関連教員		
教員インターン実習(中等教育)		2		通	6	〃		関連教員		
教員インターン実習(障害児教育)		2		通	6	〃		関連教員		
課題研究 Directed Research		2		通	6	必修		関連教員		
設置単位						100				

【資料3】教員養成CP科目一覧（平成18年度大学院科目等履修生出願要項より）

ベーシック講座	全分野にわたる知識、教材開発などをとおして教科の授業に自信を付けます。				
	授業科目名（ ）はクラス名	開講期	単位数	備 考	シラバス 該当ページ
	社会科教育基礎研究	前期	2		資I-6
	算数・数学科教育基礎研究	前期	2		資I-7
	理科教育基礎研究	前期	2		資I-8
	音楽科教育基礎研究	後期	2		資I-9
	書写教育基礎研究	後期	2		資I-10
	保健体育科教育基礎研究	後期	2		資I-11
技術科教育基礎研究	後期	2		資I-12	
実践教育学講座	教科横断的な視点で、授業力を高めます。 「教育学特論」、「教育開発リーダー研究特別演習Ⅰ・Ⅱ」以外の授業科目は、キャンパスプラザ京都サテライト教室で行われます。				
	授業科目名（ ）はクラス名	開講期	単位数	備 考	シラバス 該当ページ
	カリキュラム開発特論	前期	2		資I-14
	カリキュラム開発特別演習Ⅰ	後期	2	奇数年度開講	—
	カリキュラム開発特別演習Ⅱ	後期	2	偶数年度開講	資I-15
	広領域教育開発特論	前期	2		資I-16
	広領域教育特別演習Ⅰ	後期	2	奇数年度開講	—
	広領域教育特別演習Ⅱ	後期	2	偶数年度開講	資I-17
	教育学特論	前期	2		資I-18
	教育学特別演習Ⅰ	前期	2	奇数年度開講	—
	教育学特別演習Ⅱ	前期	2	偶数年度開講	資I-19
	授業コミュニケーション研究特論	前期	2		資I-20
	授業コミュニケーション研究特別演習Ⅰ	後期	2	奇数年度開講	—
	授業コミュニケーション研究特別演習Ⅱ	後期	2	偶数年度開講	資I-21
	授業実践研究特論	前期	2		資I-22
	授業実践研究特別演習Ⅰ	後期	2	奇数年度開講	—
	授業実践研究特別演習Ⅱ	後期	2	偶数年度開講	資I-23
	教育開発リーダー研究特論	前期	2	夏季集中講義	資I-24
教育開発リーダー研究特別演習Ⅰ	後期	2	奇数年度開講	—	
教育開発リーダー研究特別演習Ⅱ	後期	2	偶数年度開講	資I-26	
エキスパート講座	最先端の知識、校種をつなぐカリキュラムマネジメント、新たな教材開発、指導と評価の一体化などに視点をあて、ベテランとしての力量を高めます。				
	授業科目名（ ）はクラス名	開講期	単位数	備 考	シラバス 該当ページ
	教育発達相談実践総論	前期	2		資I-29
	特別支援教育実践総論	前期	2		資I-30
	国語科教育実践総論	前期	2		資I-31
	社会科教育実践総論	前期	2		資I-32
	算数・数学科教育実践総論	前期	2		資I-33
	理科教育実践総論(a)	前期	2		資I-34
	理科教育実践総論(b)	前期	2	北部サテライト教室 夏季集中講義	資I-35
	音楽科教育実践総論	前期	2		資I-36
	図画工作・美術科教育実践総論	前期	2		資I-37
	保健体育科教育実践総論	前期	2		資I-38
	技術科教育実践総論	前期	2		資I-39
	家庭科教育実践総論	前期	2	夏季集中講義	資I-40
英語科教育実践総論(a)	前期	2		資I-41	
英語科教育実践総論(b)	前期	2	北部サテライト教室 夏季集中講義	資I-42	

エキスパート講座パッケージ	パッケージ	全国の第一線の研究者・実践者を講師に迎え、知識を深める「総論」の他、課題に即した「演習」、先進的な「事例研究」をとおして、高度な専門性に基づいた実践力を身に付けます。3科目を履修後、審査の上、「エキスパートディプロマ」を授与します。 パッケージ科目は、1年間で3科目を履修することも、3年間で1科目ずつ履修することも可能です。				
		授業科目名 ()はクラス名	開講期	単位数	備 考	シラバス 該当ページ
	特別支援教育実践講座	特別支援教育実践総論	前期	2		資 I - 45
		特別支援教育実践演習	前期	2		資 I - 46
		特別支援教育事例研究	未定	2	平成19年度開講予定	—
	国語科教育実践講座	国語科教育実践総論	前期	2		資 I - 47
		国語科教育実践演習	前期	2	夏季集中講義	資 I - 48
		国語科教育事例研究	後期	2		資 I - 49
	算数・数学科教育実践講座	算数・数学科教育実践総論	前期	2		資 I - 51
		算数・数学科教育実践演習	後期	2		資 I - 52
		算数・数学科教育事例研究	後期	2		資 I - 53
	理科教育実践講座	理科教育実践総論(a)	前期	2		資 I - 54
		理科教育実践総論(b)	前期	2	北部サテライト教室 夏季集中講義	資 I - 55
		理科教育実践演習	前期	2	夏季集中講義	資 I - 56
理科教育事例研究		後期	2		資 I - 57	
学校経営改善講座	将来、自律的な学校経営を担う強い意志と意欲を持つ教務主任等の職にある中堅教員対象に、学校組織を鳥瞰し、学校管理職に必要なマネジメント能力を身に付けます。3科目を履修後、審査の上、「学校経営ディプロマ」を授与します。本講座は、1年間で3科目を履修することとします。 (a)及び(b)のクラスは、原則として、キャンパスプラザ京都サテライト教室で行います。					
	授業科目名 ()はクラス名	開講期	単位数	備 考	シラバス 該当ページ	
	学校経営改善総論(a)	前期	2		資 I - 61	
	学校経営改善総論(b)	前期	2		資 I - 61	
	学校経営改善総論(c)	前期	2	北部サテライト教室	資 I - 61	
	学校経営改善演習(a)	後期	2		資 I - 62	
	学校経営改善演習(b)	後期	2		資 I - 62	
	学校経営改善演習(c)	後期	2	北部サテライト教室	資 I - 62	
	学校経営改善事例研究(a)	通年	2	夏季及び冬季の集中講義	資 I - 63	
	学校経営改善事例研究(b)	通年	2	夏季及び冬季の集中講義	資 I - 63	
学校経営改善事例研究(c)	通年	2	北部サテライト教室 夏季及び冬季の集中講義	資 I - 63		

【資料4】多彩な学修形態の例（平成18年度教育学研究科学生便覧より）

障害児教育専修課程表

専攻	専修	分野	授業科目名	履修年次	期別	単位数	必修・選択 の別	担当教員	
障害児教育	障害児教育	障害児教育	発達障害教育特論 Topics in Education on Developmental Disabilities	1	後	2	選択	講師 丸山 啓史	
			発達障害教育特別演習A Seminar in Education on Developmental Disabilities A	2	前	2	"	講師 丸山 啓史	
			発達障害教育特別演習B Seminar in Education on Developmental Disabilities B	2	後	2	"	講師 丸山 啓史	
			発達障害教育方法特論 Topics in Method of Education on Developmental Disabilities	1	前	2	"	助教授 佐藤 克敏	
			発達障害教育方法特別演習A Seminar in Method of Education on Developmental Disabilities A	2	前	2	"	助教授 佐藤 克敏	
			発達障害教育方法特別演習B Seminar in Method of Education on Developmental Disabilities B	2	後	2	"	助教授 佐藤 克敏	
	発達障害教育特講 Lectures in Education on Developmental Disabilities	2	後	2	"	非常勤講師 山崎由可里			
	障害児心理	障害児心理	障害児心理	発達障害心理特論Ⅰ Topics in Psychology on Developmental Disabilities I	1	前	2	選択	教授 田中 道治
				発達障害心理特別演習ⅠA Seminar in Psychology on Developmental Disabilities IA	2	前	2	"	教授 田中 道治
				発達障害心理特別演習ⅠB Seminar in Psychology on Developmental Disabilities IB	2	後	2	"	教授 田中 道治
				発達障害心理特論Ⅱ Topics in Psychology on Developmental Disabilities II	1	前	2	"	教授 冷水 來生
				発達障害心理特別演習ⅡA Seminar in Psychology on Developmental Disabilities IIA	2	前	2	"	教授 冷水 來生
				発達障害心理特別演習ⅡB Seminar in Psychology on Developmental Disabilities IIB	2	後	2	"	教授 冷水 來生
	発達障害心理特講 Lectures in Psychology on Developmental Disabilities	1	後	2	"	非常勤講師 飯岡 峻			
	障害児生理・病理	障害児生理・病理	障害児生理・病理	発達障害生理・病理特論Ⅰ Topics in Physiological and Pathological Studies for Developmental Disabilities I	1	前	2	選択	講師 牛山 道雄
				発達障害生理・病理特別演習ⅠA Seminar in Physiological and Pathological Studies for Developmental Disabilities IA	2	前	2	"	講師 牛山 道雄
				発達障害生理・病理特別演習ⅠB Seminar in Physiological and Pathological Studies for Developmental Disabilities IB	2	後	2	"	講師 牛山 道雄
				発達障害生理・病理特論Ⅱ Topics in Physiological and Pathological Studies for Developmental Disabilities II	1	後	2	"	助教授 小谷 裕実
				発達障害生理・病理特別演習ⅡA Seminar in Physiological and Pathological Studies for Developmental Disabilities IIA	2	前	2	"	助教授 小谷 裕実
				発達障害生理・病理特別演習ⅡB Seminar in Physiological and Pathological Studies for Developmental Disabilities IIB	2	後	2	"	助教授 小谷 裕実
	発達障害生理・病理特講 Lectures in Physiological and Pathological Studies for Developmental Disabilities	1	前	2	"	非常勤講師 高野美由紀			
障害児教育	専修共通	専修共通	発達障害臨床実習ⅠA Clinical Practice for Developmental Disabilities IA	1	前	1	選択	関連教員	
			発達障害臨床実習ⅠB Clinical Practice for Developmental Disabilities IB	1	後	1	"	関連教員	
			発達障害臨床実習ⅡA Clinical Practice for Developmental Disabilities IIA	1	前	1	"	関連教員	
			発達障害臨床実習ⅡB Clinical Practice for Developmental Disabilities IIB	1	後	1	"	関連教員	
			特別支援教育実践総論 Theory of Special Needs Education Practice	1	前	2	"	関連教員	
			特別支援教育実践演習 Practical Seminar in Special Needs Education	1	前	2	"	関連教員	
			特別支援教育事例研究 Needs Education Case Study Research	1	前	2	"	関連教員	
			教員インターン実習(初等教育)	2	通	6	"	関連教員	
			教員インターン実習(中等教育)	2	通	6	"	関連教員	
			教員インターン実習(障害児教育)	2	通	6	"	関連教員	
課題研究 Directed Research	2	通	6	必修	関連教員				
設置単位					76				

【資料5】学習指導法の工夫の例（平成19年度大学院シラバスより）

授業科目名	概要	授業形式
学校経営特論	学校がその教育目標を最適に実現するために、どのような内部組織を構築しているのか、また管理職者だけでなく全ての教職員がいかなる組織活動を担っているのかを小中の協力校を事例として実地に分析する。学校経営の主要な領域について、協力校でのフィールドワークを通して実態と問題点を把握し、その事例分析によって学校経営の改善モデルをシミュレートする。	講義、討議、フィールドワーク、事例分析、プレゼンテーション
教育工学特論	SCS遠隔共同講義の加盟大学の各講師の講義に参加し討論することを通して、教育実践やコンピュータなどの教育メディア利用の意義について学習し、教育工学の概念や理論を理解する。さらに、コンピュータなど情報機器を用いた授業の設計とその評価について学習する。	テキストや配付資料、ビデオ、コンピュータなどの教育メディア SCS(大学間衛星遠隔講義システム)による他大学の受講者と討議
社会科教育特論Ⅱ	社会科教育学、すなわち「社会科教育」の「学」とはどのようなものか、何を対象にどのような方法論を用いるのかを、「社会認識形成論」と「市民的資質育成論」の二つに分けて紹介する。初めて学ぶ人には基本的な文献を紹介しながら、既に学んだことのある人には先端的な課題を示しながら論じていきたい。	講義、ワークショップ、ディスカッション等

【資料6】京都教育大学大学院教育学研究科アドミッション・ポリシー（HPより）

京都教育大学大学院教育学研究科アドミッション・ポリシー

本学大学院は、教育の諸領域を探究するに足る高度な専門性を養い、学校教育におけるたしかな実践力を培うことを、その目的としています。それこふさわしい意欲と資質をそなえた人材を広く求めます。なかでも現職教員には、新たな知識と視野をあたえ、現場での指導力を高めることを、たいせつな方針として掲げています。

京都教育大学大学院教育学研究科外国人留学生特別選抜アドミッション・ポリシー

いずれの国においてであれ、学校教育に関わることに強い意欲を持ち、本国では修得しがたい専門的視野や知識、教育方法を身につけようとする外国人留学生を積極的に受け入れます。

【資料7】大学院生による論文・作品発表

学生所属	論文掲載雑誌(原文)	巻・号・頁	発行元	掲載年月
教科教育専攻・理科教育専修	The SAM Model of Senescence, International Congress Series	Series 1260, pp. 199-202	Elsevier Science Publishers	2004.03
教科教育専攻・理科教育専修	The SAM Model of Senescence, International Congress Series	Series 1260, pp. 203-207	Elsevier Science Publishers	2004.03
教科教育専攻・理科教育専修	The SAM Model of Senescence, International Congress Series	Series 1260, pp. 209-213	Elsevier Science Publishers	2004.03
教科教育専攻・理科教育専修	The SAM Model of Senescence, International Congress Series	Series 1260, pp. 215-219	Elsevier Science Publishers	2004.03
教科教育専攻・保健体育専修	体育科教育	52(9):68-71	大修館書店	2004.07
教科教育専攻・技術教育専修	技術科教育の研究	第10巻	日本産業技術教育学会技術教育分科会	2004.12
教科教育専攻・美術教育専修	nasic square ギャラリーにおける作品発表			2005.02
教科教育専攻・保健体育専修	体育科教育	53(2):40-43	大修館書店	2005.02
教科教育専攻・理科教育専修	京都教育大学教育実践研究紀要	第5号 57-68	京都教育大学	2005.03
教科教育専攻・技術教育専修	技術科教育の研究	第11巻	日本産業技術教育学会技術教育分科会	2005.12
教科教育専攻・理科教育専修	化学と教育	53(12), pp.714-717	日本化学会	2005.12
教科教育専攻・美術教育専修	くずはアートギャラリーにおける作品発表			2006.03
教科教育専攻・美術教育専修	立体ギャラリー射手座における作品発表			2006.03
教科教育専攻・美術教育専修	大学美術教育学会誌	第38号, pp.249-256.	大学美術教育学会	2006.03
教科教育専攻・美術教育専修	大学美術教育大学学会誌			2006.03
教科教育専攻・保健体育専修	スポーツとジェンダー研究	4:4-15	日本スポーツとジェンダー学会	2006.03
教科教育専攻・保健体育専修	京都教育大学教育実践総合センター年報	6:55-62	京都教育大学教育実践総合センター	2006.03
教科教育専攻・理科教育専修	京都教育大学教育実践研究紀要	第6号, p25-34	京都教育大学	2006.03
教科教育専攻・家政教育専修	京都教育大学紀要	No. 109, pp. 63-71	京都教育大学	2006.09
教科教育専攻・美術教育専修	美育文化	Vol.56, No.5, pp.60-61.	財団法人 美育文化協会	2006.09
教科教育専攻・美術教育専修	美育文化	Vol.56, No.5, pp.58-59.	財団法人 美育文化協会	2006.09
教科教育専攻・保健体育専修	体育科教育	54(9):68-70	大修館書店	2006.09
教科教育専攻・理科教育専修	化学と教育	第54巻第10号 548-551	日本化学会	2006.10
学校教育専攻・学校教育専修	広領域教育研究会誌	第64号, pp.54-61	広領域教育研究会	2006.11
教科教育専攻・社会科教育専修	人文地理	59巻1号, pp.44-56	人文地理学会	2007.02
教科教育専攻・美術教育専修	美術教育学	第28号	美術科教育学会	2007.03
学校教育専攻・学校教育専修	エネルギー環境教育研究	Vol.1, No.1, 2007	エネルギー環境教育学会	2007.05
教科教育専攻・数学教育専修	数学教育学会誌	2006 Vol.47 No3・4 33-44	数学教育学会	2007.05
教科教育専攻・数学教育専修	数学教育学会誌	47巻3・4号53-67	数学教育学会	2007.06
教科教育専攻・理科教育専修	理科の教育	Vol.56 6月号 62-65	日本理科教育学会	2007.06
教科教育専攻・社会科教育専修	京都教育大学環境教育研究年報	16号	京都教育大学環境教育実践センター	2008.03
教科教育専攻・理科教育専修	京都教育大学教育実践研究紀要	8:11-20	京都教育大学	2008.03
教科教育専攻・理科教育専修	京都教育大学教育実践研究紀要	8:11-20	京都教育大学	2008.03

【資料8】大学院生における学会等発表一覧

学生所属	会議名(原文)	題目(原文)	開催年月
学校教育専攻・学校教育専修	第38回日本心身医学会近畿地方会	附属高校の保護者を対象とした摂食障害家族教室の実施とその意義について	2004.07
学校教育専攻・学校教育専修	日本教育メディア学会第11回大会	小学校における「情報モラル教育」に関する研究	2004.10
学校教育専攻・学校教育専修	日本理科教育学会	理科の教科書における五感を扱う活動の取り扱われ方	2004.11
学校教育専攻・学校教育専修	ハワイ国際社会科学会議	子どもを見る視点;幼稚園教師と小学校教師	2005.05
学校教育専攻・学校教育専修	日本理科教育学会	環境教育におけるセンス・オブ・ワンダーの位置づけ	2005.08
学校教育専攻・学校教育専修	エネルギー環境教育学会第1回全国大会	数科学習と総合的な学習の時間を組み合わせたエネルギー環境教育の実践	2006.08
学校教育専攻・学校教育専修	第48回日本心身医学会総会ならびに学術講演会	新しい成人向け生活実度調査評価尺度の作成	2007.05
学校教育専攻・学校教育専修	日本理科教育学会第57回全国大会	日なたで気温が測れるか?放射による熱の伝わり方への気づきを促す教材の開発	2007.08
学校教育専攻・学校教育専修	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	日なたで気温が測れるか?放射による熱の伝わり方への気づきを促す教材の開発-その2	2007.12
教科教育専攻・英語教育専修	外国語教育メディア学会第46回全国大会	音読の速度と正確さに関する分散学習による音読練習の効果	2006.08
教科教育専攻・英語教育専修	外国語教育メディア学会第46回全国大会	少人数授業を生かし、補充的学習に視点をいた基礎学力定着のための取り組み	2006.08
教科教育専攻・英語教育専修	第33回全国英語教育学会大分研究大会	ストーリーテリングによる意味理解と記憶の関係について	2007.08
教科教育専攻・英語教育専修	第33回全国英語教育学会大分研究大会	語彙学習における未知語推測の成否が記憶に及ぼす影響について	2007.08
教科教育専攻・家政教育専修	日本家政学会第57回大会	ホウレン草ジュースの遊離シアン酸含量について	2005.05
教科教育専攻・家政教育専修	日本家政学会関西支部第27回研究発表会	紫外線処理によるポリエステルの親水化	2005.10
教科教育専攻・家政教育専修	日本家政学会関西支部第27回研究発表会	高等学校普通教科「家庭」における内容構成に関する研究 -生徒のライフスタイル観の育成を目指して-	2005.10
教科教育専攻・家政教育専修	日本家政学会関西支部第27回研究発表会	高校生を対象とした「観準備性」を育てる家庭科教育 -教師及び生徒に対する調査を通して-	2005.10
教科教育専攻・家政教育専修	日本家政学会第59回大会	エキスマン紫外光を照射した合成繊維製品の水分子移動特性	2007.05
教科教育専攻・技術教育専修	日本産業技術教育学会第19回全国大会研究発表会	ものづくり学習「木材加工」の製作過程における協同作業の分析	2004.08
教科教育専攻・技術教育専修	日本産業技術教育学会技術教育分科会 第10回研究発表会	ものづくりの製作過程における協同作業の分析	2004.12
教科教育専攻・技術教育専修	日本産業技術教育学会技術教育分科会 第11回研究発表会	ものづくりの協同学習における社会性への影響に関する研究	2005.12
教科教育専攻・社会科教育専修	日本環境教育学会第16回大会(京都)	英国の新教科「シヤズンシップ」における主題としての「環境」	2005.05
教科教育専攻・社会科教育専修	社会系教科教育学会第18回研究発表大会	社会科公民的資質再考-公共・自国の認識・国際理解を鍵概念にして-	2007.02
教科教育専攻・社会科教育専修	日本環境教育学会第18回大会(鳥取)	環境シヤズンシップを考える	2007.05
教科教育専攻・社会科教育専修	第18回 日本公民教育学会研究発表大会	中国市民教育の改善研究-公共性概念を視点として-	2007.06
教科教育専攻・社会科教育専修	第56回 全国社会科教育学会研究大会	ポリティカル・リテラシーを育成するシヤズンシップ授業の改善研究(2)	2007.10
教科教育専攻・社会科教育専修	第57回 日本社会科教育学会全国研究大会	ポリティカル・リテラシーを育成するシヤズンシップ授業の改善研究(1)	2007.10
教科教育専攻・数学教育専修	数学教育学会 夏季例会	中等教育における関数指導の問題点とその2	2005.08
教科教育専攻・数学教育専修	数学教育学会 秋季例会	中等教育における関数指導についての一考察(その3)	2005.09
教科教育専攻・数学教育専修	数学教育学会 秋季例会	中等教育段階における関数の教育について(その2)	2005.09
教科教育専攻・数学教育専修	2006年度数学教育学会春季年会	高校数学の現状と課題-学校現場をとりまく複雑な環境-	2006.03
教科教育専攻・数学教育専修	2006年度数学教育学会春季年会	中学校における変換を中心とした幾何カリキュラムの研究	2006.03
教科教育専攻・数学教育専修	2006年度数学教育学会春季年会	高等学校における教科「数学」と「情報」の相互授業研究(その1)	2006.03
教科教育専攻・数学教育専修	2006年度数学教育学会春季年会	Scienceとの接点を意識した教示開発の研究(2)	2006.03
教科教育専攻・数学教育専修	2006年度数学教育学会春季年会	小学校における演繹的推論を中心とした論理のカリキュラム構成	2006.03
教科教育専攻・数学教育専修	数学教育学会 春季年会	中等教育における関数指導についての考察(その6)	2006.03
教科教育専攻・数学教育専修	数学教育学会 春季年会	中等教育段階における関数の教育について(その5)	2006.03
教科教育専攻・数学教育専修	2006年度数学教育学会秋季例会	高校数学における「微分方程式の解法」の教材開発	2006.09
教科教育専攻・数学教育専修	数学教育学会 秋季例会	中等教育段階における関数の教育について(その7)	2006.09
教科教育専攻・数学教育専修	数学教育学会 春季年会	中等教育段階における関数の教育について(その8)	2007.03
教科教育専攻・美術教育専修	2004美術教育学会第7回西地区研究会<シンポジウムin京都>	地域の美術館所蔵作品を身近なものにする試み-作品の教材化と美術館の利用-	2004.12
教科教育専攻・美術教育専修	第28回美術教育学会京都大会(併催:第9回西地区研究会in京都)	「不登校」と経験を見つめ直し、心に新しい風を受けて	2005.11
教科教育専攻・美術教育専修	第28回美術教育学会京都大会	園工作科を通じた自尊感情の形成-表現と鑑賞を関連させた実践から-	2006.03
教科教育専攻・美術教育専修	第28回美術教育学会京都大会	子どもの造形表現と家族像-昭和30年代から40年代の子どもの表現に見る家族-	2006.03
教科教育専攻・美術教育専修	第29回美術教育学会大会	相互鑑賞を通じた自尊感情の形成-園工作科での実践と心理測定結果から-	2007.03
教科教育専攻・保健体育専修	日本スポーツとジェンダー学会第3回大会	体育授業におけるジェンダーの制度化-高等学校の持久走授業を事例に-	2004.07
教科教育専攻・保健体育専修	日本スポーツとジェンダー学会第4回大会	高校体育授業における教師-学習者の相互作用に関するジェンダー視点からの検討	2005.07
教科教育専攻・保健体育専修	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	子どものスポーツ活動の今、そして未来に向けて	2006.02
教科教育専攻・保健体育専修	日本体育・スポーツ経営学会第29回大会	子どものスポーツ活動に及ぼす保護者の影響-子どもの身体活動に対する保護者の意識に着目して-	2006.03
教科教育専攻・保健体育専修	京都体育学会 体育経営管理専門分科会	日本における障害者スポーツ研究の現状と課題	2007.01
教科教育専攻・保健体育専修	第54回近畿学校保健学会	小学生の保健学習の取り組みと評価	2007.06
教科教育専攻・理科教育専修	第27回 日本基礎老化学会大会	老化促進モデルマウス(SAMP1)におけるタンパク抗原に対する抗体産生反応と抗原提示細胞の機能について	2004.06
教科教育専攻・理科教育専修	第19回 老化促進モデルマウス研究協議会研究発表会	SAMP1マウス付着性腹腔細胞のNO産生機能	2004.07
教科教育専攻・理科教育専修	第19回 老化促進モデルマウス研究協議会研究発表会	SAMP1マウス培養脾臓細胞のタンパク抗原に対する抗体産生反応と抗原提示細胞の機能-第二報-	2004.07
教科教育専攻・理科教育専修	第19回 老化促進モデルマウス研究協議会研究発表会	IL2/IL-12の抗体産生調節作用に対するSAMP1マウス脾臓細胞の低応答性について	2004.07
教科教育専攻・理科教育専修	第20回 老化促進モデルマウス研究協議会研究発表会	SAMP1マウス培養脾臓細胞のタンパク抗原に対する抗体産生反応とT細胞の機能	2005.07
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会全国大会	高校化学におけるコロイド溶液の性質に関する教材化と実践	2005.08
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会全国大会	マイクロスケール実験による水の電気分解実験の定量化	2005.08
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	小学校「水のつくり」の単元における授業展開の工夫-「発見から確認へ」が「観察から実験へ」のプロセスを重視して-	2005.11
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	養から考える教材開発	2005.11
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	作ることから始めるメンコ遊び-伝承的な子どもの遊びを手がかりにした理科教材の開発を目指して-	2005.11
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	電子の動きに注目した電気回路のモデル実験-LEDを用いた教材実験を中心に-	2005.12
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会近畿支部大会(滋賀)	マイクロスケール実験による金風イオン定性分析の発展的教材実験-高校化学における金風イオンの確認および分離実験-	2005.12
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会近畿支部大会(奈良)	マイクロスケール実験による水の電気分解実験の定量化-燃料電池実験への発展と改良-	2005.12
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会全国大会	実践を通して考える理科教育における遊びの役割-メンコ遊びを例にして-	2006.08
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会全国大会	中・高等学校におけるマイクロスケール実験の実践例-マイクロスケール実験の普及に向けて-	2006.08
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会全国大会	電子の動きに注目した電気回路のモデル実験II	2006.08
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会全国大会	中学校理科における中和反応のマイクロスケール実験-反応熱、電気伝導性の測定を中心にして-	2006.08
教科教育専攻・理科教育専修	第47回高圧討論会	加水分解酵素 α -キモトリプシンの安定性における基質の構造の影響	2006.11
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会第53回東海支部大会(名古屋)	実践を通して考える理科教育における遊びの役割-その2-教科書での扱われ方に着目して-	2006.11
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会第53回東海支部大会(名古屋)	学校ビオトープを介して、自然への関わり方を探る	2006.11
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会第53回東海支部大会(名古屋)	自然界から酵素を探し出して、パンをつくる試み-人間と自然のつながりに目を向ける教材の開発-	2006.11
教科教育専攻・理科教育専修	日本環境教育学会第18回大会(鳥取)	学校ビオトープを介して自然への関わり方を探る	2007.05
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会第57回全国大会	自然界から酵素を探し出して、パンをつくる試み-人間と自然のつながりに目を向ける教材の開発-	2007.05
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会第57回全国大会	太陽光と生態系の関係-への関心を促す教材の開発-エネルギー問題に取り組み土台づくりの教育を目指して-	2007.08
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会第57回全国大会	色フィルターで覆った水槽はどうなっていくだろうか?色が生物の世界に与える影響を調べる-	2007.08
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会第57回全国大会	学校ビオトープを介して、自然との関わり方を探る-ビオトープで生活する生き物たちとの出会いを通して-	2007.08
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会第57回全国大会	身近な樹木の見直しから検索表の試作とそれを用いた授業の計画	2007.08
教科教育専攻・理科教育専修	日本理科教育学会第57回全国大会	中学校電気分野における電位概念の学習	2007.08
教科教育専攻・理科教育専修	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	太陽光と生態系の関係-への関心を促す教材の開発-エネルギー問題に取り組み土台づくりの教育を目指して-その2	2007.12
教科教育専攻・理科教育専修	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	学校ビオトープの教材としての意義と活かし方を探る-自らの池づくりと継続観察を通して-	2007.12
教科教育専攻・理科教育専修	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	探究学習としての夏休みの自然探究指導の一事例-生徒の内発的動機づけを高める教師の支援-	2007.12
教科教育専攻・理科教育専修	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	植物の葉の動きと太陽の動きの関係を探る-児童向け探究教材の開発を目指して-	2007.12
教科教育専攻・理科教育専修	平成19年度日本理科教育学会近畿支部大会(和歌山大会)	土や水を入れたコンテナを色フィルターで覆って放置しておくとうなるだろうか?色が生物の世界に与える影響を調べる-	2007.12
障害児教育専攻・障害児教育専修	第51回日本小児保健学会	低出生体重児の父親の心理的受容について(第1報)	2004.10

【資料9】既存大学院教育学研究科カリキュラム改革の例（平成20年度教育学研究科学生便覧より）

学校教育専修課程表

専攻	専修	分野	授業科目名	履修年次	期別	単位数	必修・選択の別	担当教員	
学 校 教 育	学 校 教 育	（教育学・教育史）	教育哲学特論 Topics in Philosophy of Education	1.2	前	2	選択	准教授 相澤 伸幸	
			学校教育実践総論Ⅰ	1.2	前	2	〃	准教授 相澤 伸幸	
			教育哲学特別演習 Seminar in Philosophy of Education	1.2	後	2	〃	准教授 相澤 伸幸	
			学校教育実践総論Ⅱ	1.2	前	2	〃	准教授 岡部 美香	
			西洋教育史特論 Topics in History of occidental Education	1.2	前	2	〃	准教授 岡部 美香	
			西洋教育史特別演習 Seminar in History of occidental Education	1.2	後	2	〃	准教授 岡部 美香	
			教育行財政特論 Topics in Educational Finance and Administration	1.2	後	2	選択	教授 榎原 禎宏	
			学校経営特論 Topics in School Management	1.2	後	2	〃	教授 榎原 禎宏	
			公教育経営特別演習Ⅰ Seminar in Administration of Public Education I	1.2	前	2	〃	教授 榎原 禎宏	
			公教育経営特別演習Ⅱ Seminar in Administration of Public Education II	1.2	前	2	〃	教授 榎原 禎宏	
			教員研修特講 Lectures in In-service Education for Teachers	1.2	前	2	〃	未定	
			学校経営コンサルティング School Management Consulting	1.2	前	2	〃	教授 堀内 孜ほか	
		（教育学・幼児教育学コース）	教育社会学特論 Topics in Sociology of Education	1.2	後	2	選択	教授 村上登司文	
			教育社会学特別演習 Seminar in Sociology of Education	1.2	前	2	〃	教授 村上登司文	
			学校教育実践総論Ⅲ	1.2	後	2	〃	教授 村上登司文	
			社会教育特講 Lectures in Adult Education	1.2	前	2	〃	非常勤講師 前平 泰志	
			学校教育実践総論Ⅳ	1.2	後	2	〃	教授 伊藤 悦子	
			人権教育特論 Topics in Education for Human Rights	1.2	前	2	〃	教授 伊藤 悦子	
			人権教育特別演習 Seminar in Education for Human Rights	1.2	前	2	〃	教授 伊藤 悦子	
			（教育学・幼児教育学コース）	学校教育実践総論Ⅴ	1.2	後	2	選択	講師 樋口 とみ子
				教育課程論特論 Topics in Curriculum Development	1.2	前	2	〃	講師 樋口 とみ子
				教育課程論特別演習 Seminar in Curriculum Development	1.2	後	2	〃	講師 樋口 とみ子
				学校教育実践総論Ⅵ	1.2	前	2	〃	教授 岡本 正志
				教育内容・方法論特論 Topics in Education over a Large Domain	1.2	後	2	〃	教授 岡本 正志
教育内容・方法論特別演習 Seminar in Education over a Large Domain	1.2	後		2	〃	教授 岡本 正志			
教育方法学特別演習 Seminar in Learning and Instruction	1.2	後		2	〃	准教授 徳岡 慶一			
教育方法学特論 Topics in Learning and Instruction	1.2	前		2	〃	非常勤講師 西岡 加名志			
教育方法学特講 Lectures in Learning and Instruction	1.2	前		2	〃	非常勤講師 田中 精治			
道徳教育特論Ⅰ Topics in Moral Education I	1.2	後		2	選択	非常勤講師 藤川 信夫			
道徳教育特論Ⅱ Topics in Moral Education II	1.2	後		2	〃	非常勤講師 藤川 信夫			
道徳教育特別演習Ⅰ Seminar in Moral Education I	1.2	前		2	〃	非常勤講師 不開講			
道徳教育特別演習Ⅱ Seminar in Moral Education II	1.2	前	2	〃	非常勤講師 不開講				
（教育学・幼児教育学コース）	幼児教育学特講 Lectures in Infant Education	1.2	前	2	選択	非常勤講師 加藤 繁美			
	幼児教育学特別演習 Seminar in Infant Education	1.2	後	2	〃	非常勤講師 加藤 繁美			
	幼児心理学特論 Topics in Infant Psychology	1.2	前	2	〃	教授 加用 文男			
	学校教育実践総論Ⅶ	1.2	後	2	〃	教授 加用 文男			
	幼児心理学特別演習 Seminar in Infant Psychology	1.2	後	2	〃	教授 加用 文男			
	幼児教育内容特論 Topics in Teaching Materials in Infant	1.2	前	2	〃	准教授 平井 恭子			
	幼児教育内容特別演習 Seminar in Teaching Materials in Infant Education	1.2	後	2	〃	准教授 平井 恭子			
	（教育・発達心理学コース）	教育心理学特論Ⅰ Topics in Educational Psychology I	1.2	前	2	選択	教授 矢野 喜夫		
		教育心理学特別演習Ⅰ Seminar in Educational Psychology I	1.2	後	2	〃	教授 矢野 喜夫		
		教育心理学特論Ⅱ Topics in Educational Psychology II	1.2	前	2	〃	教授 藤岡 秀樹		
		教育心理学特別演習Ⅱ Seminar in Educational Psychology II	1.2	後	2	〃	教授 藤岡 秀樹		
		進路指導特論 Topics in Career Guidance	1.2	前	2	〃	教授 藤岡 秀樹		
教授・学習過程論特講 Lectures in Instruction and Learning Process		1.2	後	2	〃	非常勤講師 吉田 甫			
学校教育実践総論Ⅷ		1.2	後	2	〃	教授 藤岡 秀樹			
学校教育実践総論Ⅸ		1.2	後	2	〃	教授 藤岡 秀樹			
教育社会心理学特講 Lectures in Social Psychology of Education		1.2	後	2	〃	非常勤講師 石井 京子			
測定・検査論特講 Lectures in Measurement and Testing		1.2	後	2	〃	非常勤講師 内山 伊知郎			
言語発達心理学特論 Topics in Language Development		1.2	後	2	選択	教授 岩田 純一			
発達心理学特別演習 Seminar in Developmental Psychology		1.2	前	2	〃	教授 岩田 純一			
学校教育実践総論Ⅹ	1.2	後	2	〃	教授 水谷 宗行				
認知発達論特論 Topics in Cognitive Development	1.2	後	2	〃	教授 水谷 宗行				
認知発達論特別演習 Seminar in Cognitive Development	1.2	前	2	〃	教授 水谷 宗行				
情意発達の心理学特講 Lectures in Affective Development	1.2	前	2	〃	非常勤講師 莊蔵 舜哉				

専攻	専修	分野	授業科目名	履修年次	期別	単位数	必修・選択の別	担当教員
教育学	学校教育	教育臨床心理学	臨床心理学特論Ⅰ Topics in Clinical Psychology I	1.2	前	2	選択	准教授 小松 貴弘
			臨床心理学特論Ⅱ Topics in Clinical Psychology II	1.2	後	2	"	教授 本間 友巳 花田里吹子
			臨床心理基礎実習 Primary Practice on Clinical Psychology	1	通	2	"	講師 花田里吹子
			教育臨床心理学特論 Topics in Clinical Psychology of Education	1.2	前	2	"	講師 花田里吹子
			臨床心理査定演習Ⅰ Seminar in Psychological Assessment I	1.2	後	2	"	
			臨床心理査定演習Ⅱ Seminar in Psychological Assessment II	1.2	後	2	"	
			臨床心理面接特論Ⅰ Topics in Counseling I	1.2	前	2	"	教授 本間 友巳
			臨床心理面接特論Ⅱ Topics in Counseling II	1.2	後	2	"	准教授 内田 利広
			臨床心理実習 Practice on Clinical Psychology	2	通	2	"	教授 中村 道彦 准教授 本間 友巳 教授 内田 利広 教授 小松 貴弘 教授 花田里吹子
			病院臨床実習 Practice on Clinical Psychology in Hospital	2	通	2	"	教授 中村 道彦 准教授 本間 友巳 教授 小松 貴弘 教授 花田里吹子
			学校カウンセリング実習 Practice on School Counseling	1.2	通	2	"	准教授 内田 利広
			投映法特講 Lectures in Projective Techniques	1.2	後	2	"	非常勤講師 荒木ひさ子
			家族心理学特講 Lectures in Family Psychology	1.2	前	2	"	非常勤講師 吉川 悟
			カウンセリング論特講 Lectures in Counseling	1.2	前	2	"	非常勤講師 大日方重利
生徒指導特講 Lectures in Guidance and Counseling	1.2	前	2	"	非常勤講師 香川 克			
教育学	学校教育	教育臨床心理学	臨床心理学研究法特論 Topics in Reseach on Clinical Psychology	1.2	前	2	選択	講師 花田里吹子
			教育臨床心理学特別演習 Seminar in Clinical Psychology of Education	1.2	後	2	"	講師 花田里吹子
			コミュニティ・アプローチ特論 Community Psychology	1.2	後	2	"	
			心身医学特論 Topics in Psychosomatic Medicine	1.2	前	2	"	教授 中村 道彦
			精神医学特論 Topics in Psychiatry	1.2	後	2	"	教授 中村 道彦
			学校臨床実習 Practice on School Clinical Psychology	1.2	通	2	"	教授 本間 友巳
			学校教育実践総論Ⅰ	1.2	前	2	"	准教授 小松 貴弘
			教員インターン実習(初等教育)	2	通	6	"	関連教員
			教員インターン実習(中等教育)	2	通	6	"	関連教員
			教員インターン実習(障害児教育)	2	通	6	"	関連教員
課題研究 Directed Research	2	通	6	必修	関連教員			
設置単位						68		